

夢二版 曽根崎心中

2019/2/3 キックオフ プレゼンテーション



「曽根崎心中」とは

- ▶ 1703年、近松門左衛門によって人形浄瑠璃用に書かれた
- ▶ 実際に大阪でおこった心中事件を題材にしている
- ▶ 主な登場人物



天満屋の遊女
お初



醤油屋
平野屋徳兵衛



油屋九平治

曾根崎心中 あらすじ



人形浄瑠璃とは

- ▶ 物語に節をつけて聴かせる「浄瑠璃」に、「人形操り」が結びついたもの
- ▶ 語りの名人であった竹本義太夫が大阪に竹本座を開き、近松門左衛門が書いた戯曲を上演し、たいへんな人気を呼んだことで、今につながる形へ
- ▶ 語り手である太夫（たゆう）と三味線弾き（ひき）、そして人形遣い（つかい）によって演じられる

❖ 太夫 たゆう

セリフから情景描写まで、1人で語り分けます

▶ 映像を見る



❖ 三味線弾き しゃみせんひき

物語を彩り陰影を加える、太夫のパートナー

▶ 映像を見る



❖ 人形遣い にんぎょうつかい

3人が呼吸を合わせ、人形に命を吹き込みます

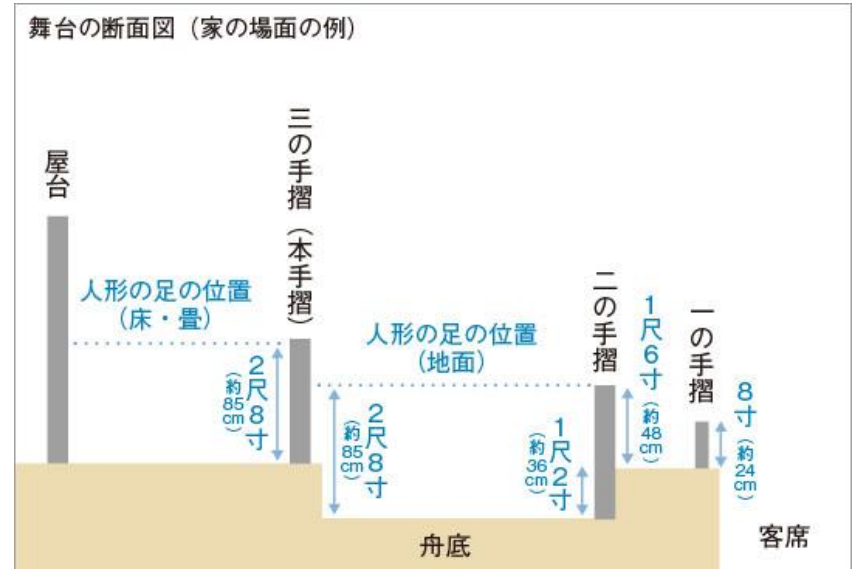
▶ 映像を見る



▶ 客席側から



▶ 下手側から



夢二版 曽根崎心中 見せ方・役割

人形遣い役（3人）

声担当

お初

徳兵衛

九平治

人形遣いは
操っている動きを
しながら、人形の
声をあてる

手話担当

お初

徳兵衛

九平治

人形は
人形のような動き
をしながら手話
を行う

人形役（3人）

太夫役



太夫は
進行の語りを
行う。
声も出し、
手話も行う

夢二版 曽根崎心中 構成

全体を3部構成（序・破・急）とする（60分）

- 序・・・「曽根崎心中」の内容をそのまま上演（20分）
- 破・・・上演後の舞台裏。
人形師に明日の千秋楽で劇団が解散することが伝えられる。
誰もいなくなった深夜、人形も思いを語りだす。（20分）
- 急・・・「曽根崎心中」千秋楽
いつもと同じように話が始まるが、人形が勝手に動き出し
ハチャメチャな展開に。（20分）

曽根崎心中、破 より抜粋

誰もいなくなった楽屋。

真っ暗な部屋に三体の人形だけが、上半身を起こした形で並べられている。
しばしの静寂の後、お初人形の腕だけがゆっくりと動きだす

お初 ・・・わたし・・・もう・・・死ぬのはいや。
いつも・・・せっかく徳兵衛さまと
いっしょになるのに・・・さいご・・・死んで・・・おわり・・・。

わたしは・・・生きて・・・徳兵衛さまと、いっしょになりたい

夢二版 曽根崎心中 声と手話

- 序 . . . 人形役は手話のみ。
人形遣いは人形の声を担当。
太夫は手話 + 声をひとりで。
- 破 . . . 人形遣い、太夫は、手話 + 声をひとりで。
人形は手話のみ
スライド字幕で人形のセリフ。
- 急 . . . 人形役は手話のみ。
人形遣いは人形の声 + 人形遣い自身のセリフは手話 + 声。
太夫は手話 + 声をひとりで。